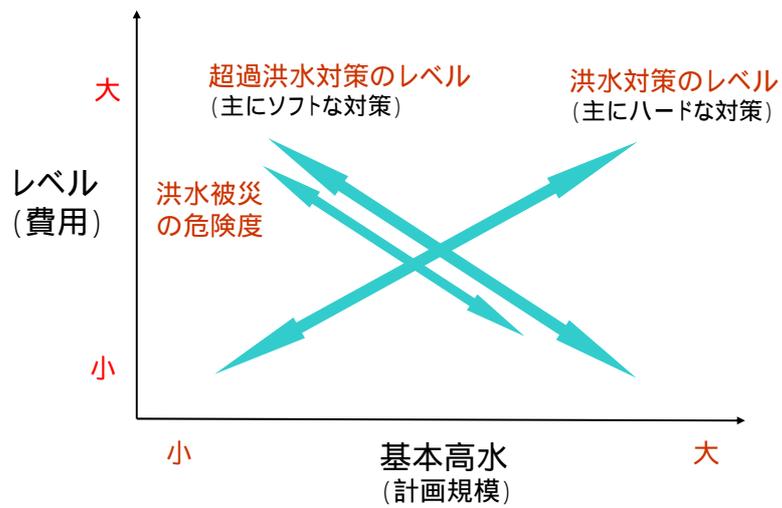


計画降雨と基本高水について



「対策」の質(目的)の違い

(主にハードな)洪水対策

被災範囲・被災規模の軽減に関わる対策

(主にソフトな)超過洪水対策

「人命」にかかわる被害の軽減・「避難」に関わる対策

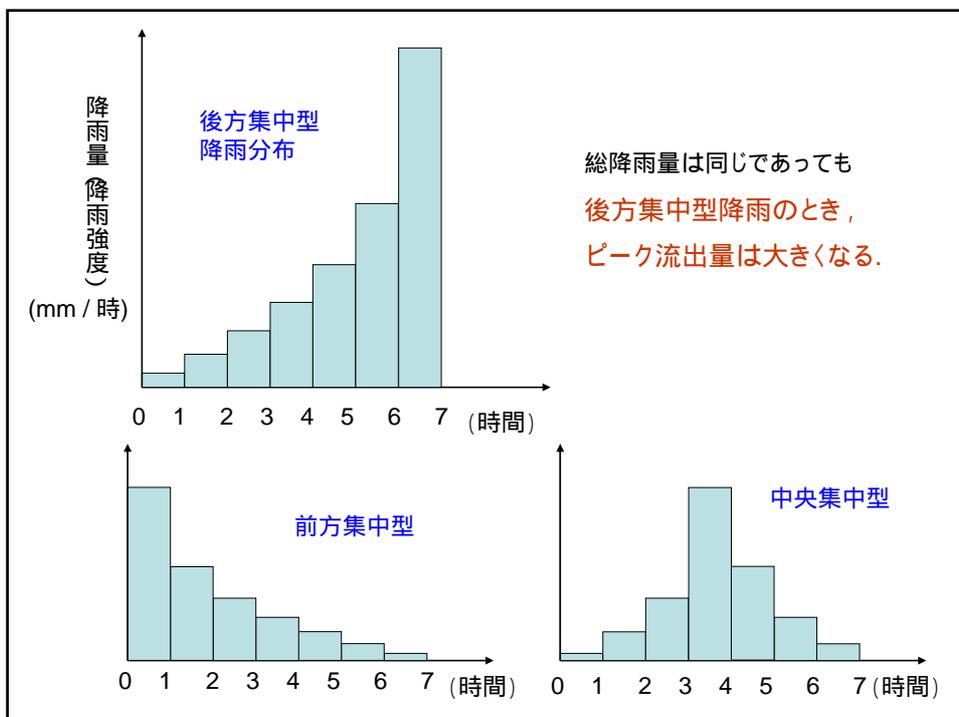
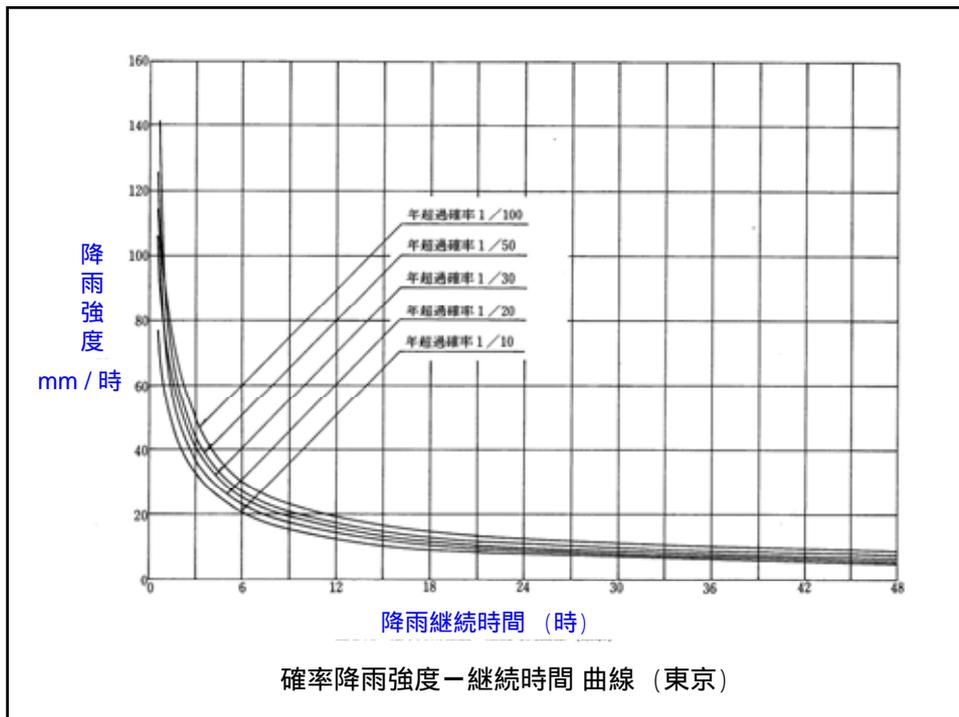
(生活基盤・生産基盤などの被害軽減には、直接的に貢献しない)

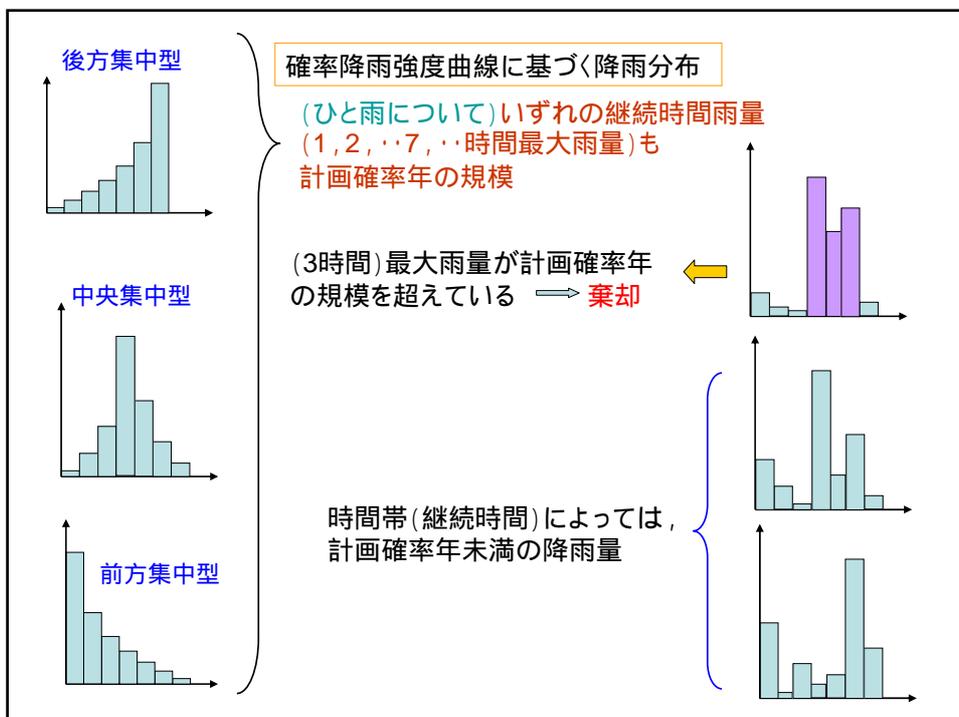
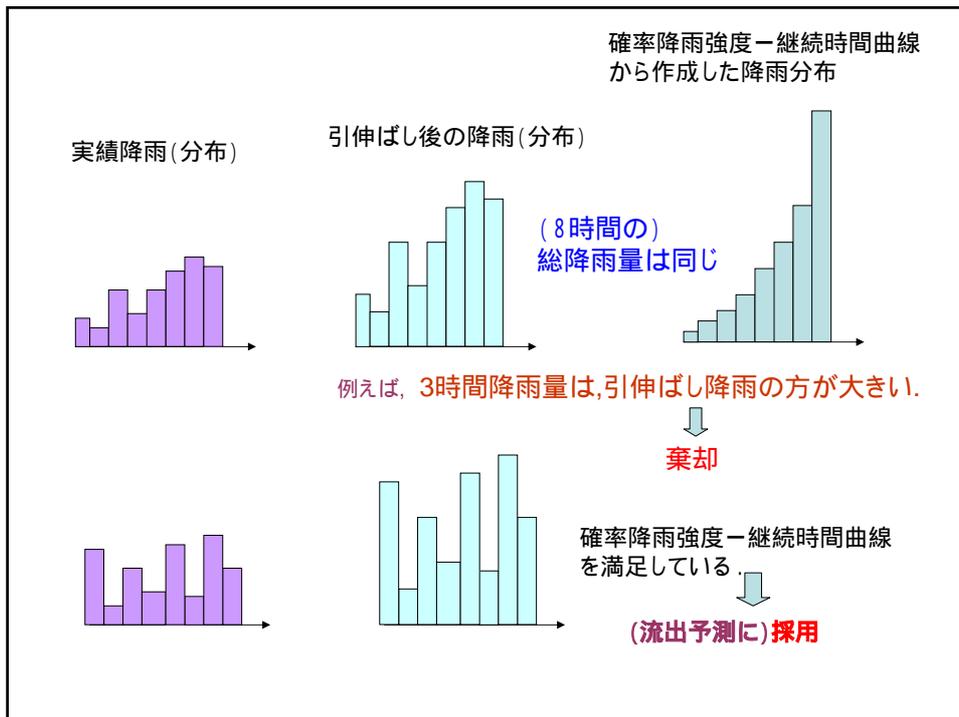
「ソフトな対策」で留意すべき点

危機対応の根幹が、行政・自治会・消防団・NPO・各種団体などのシステム・ネットワークであること。

非常・緊急時(昼間・夜間を問わず)に、(社会的弱者の避難・救助などに)システム・ネットワークが支障なく動作するよう、恒常的に点検・保守(訓練)する必要がある。

計画降雨, 予測ハイドログラフについて





ふつう、流出解析・流出予測の対象とする部分流域ごとに

「確率降雨強度 - 継続時間」曲線を確定するほど降雨データの経年的蓄積はない。

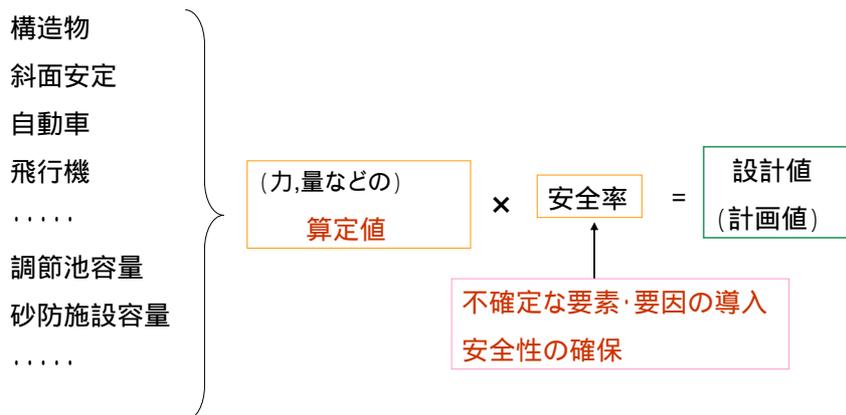
そのため、日雨量、2日間雨量、12時間雨量、(洪水到達時間内雨量)などの総雨量を計画規模の雨量に合わせるように、実績の降雨を引伸ばす。
このとき、降雨の時間分布パターンはそのままとする。

引伸ばし後の降雨の時間分布に、確率的に明らかな不合理があれば、この降雨パターンを棄却する。

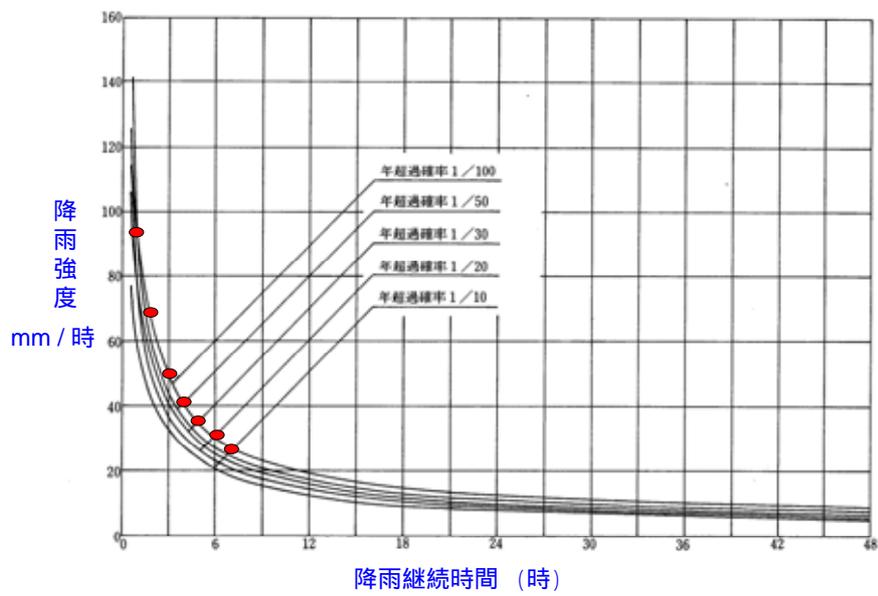
したがって、「流出予測に採用された降雨分布」は、
確率降雨強度 - 継続時間曲線に基づく降雨分布より、
小さな流出量あるいはピーク流出量をあたえる、ことになる。

すなわち、予測流出量群(予測ハイドログラフ群)のうちの最大値も、
想定している確率年(計画規模)での最大値ではない。

安全率 について



確率降雨強度曲線を用いた計画対象降雨の降雨波形の作成(例)



継続時間 (hr)	降雨強度 (mm/hr)	総雨量 (mm)	時間帯	時間雨量 (mm/hr)
1	90	90	0 ~ 1	90
2	70	140	1 ~ 2	50
3	52	156	2 ~ 3	16
4	42	168	3 ~ 4	12
5	35	175	4 ~ 5	7
6	30	180	5 ~ 6	5
7	26	182	6 ~ 7	2